

## 「ステファノの弁明 2」

2016年03月30日

**使徒言行録 7章9節～19節。**この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。ところが、エジプトとカナンの全土に飢饉が起り、大きな苦難が襲い、わたしたちの先祖は食糧を手に入れることができなくなりました。ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まずわたしたちの先祖をそこへ行かせました。二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分の身の上を明かし、ファラオもヨセフの一族のことを知りました。そこで、ヨセフは人を遣わして、父ヤコブと七十五人の親族一同を呼び寄せました。ヤコブはエジプトに下って行き、やがて彼もわたしたちの先祖も死んで、シケムに移され、かつてアブラハムがシケムでハモルの子らから、幾らかの金で買っておいた墓に葬られました。神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくにつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。

ステファノの弁明はヨセフ物語へと続いていく。父ヤコブは4人の妻から12人の息子と1人の娘をもうけた。ヤコブは愛妻ラケルの生んだヨセフを偏愛した。そのことを妬んだ兄弟たちはヨセフをエジプトへ奴隷として売り渡した。ヨセフはエジプトで多くの苦勞をするが、夢を解く特別な才能を持っていた。ファラオの見た夢を解き、7年の豊作の後、7年の危機が来ることを預言する。これが認められ、ファラオの次の権限を持つ宰相の位に取り立てられる。ヨセフは7年の豊作の間、穀物を貯め続ける。訪れた飢饉の時、貯めた穀物を使い、莫大な利益をファラオにもたらす。カナンに住む父ヤコブ、兄弟たち一家も飢饉に見舞われ、エジプトに食料を買い求めに来て、ヨセフは兄弟たちと再会する。ヨセフは兄弟たちと分かるが、兄弟たちは弟ヨセフとは気がつかない。ヨセフは兄弟たちが自分をエジプトに売ったことを悔いているか、実の弟ベニヤミンを愛しているかを、策略を持って確かめる。兄ユダの涙ながらの嘆願を聞いて、兄弟たちを赦し「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです」と告白する。人は皆、耐え難い苦惱を背負うが、それらは、救いに与るために神が用意されたことである。ヨセフの全ては神の救済史の中にあるという告白は美しく、私たちに慰め、励ましてくれる。父ヤコブとその一族はエジプトに移住し、宰相ヨセフの加護の下で平安に暮らす。ヤコブはエジプトで死に、祖父アブラハムがヘブロンで買った墓、アブラハム、父イサクが眠る墓に葬られた。

ヤコブ一族は増え、イスラエル人はエジプト中に広がっていった。時代が変わり、エジプトに貢献した宰相ヨセフのことを知らない別の王たちが続いた。彼らはイスラエル人を奴隷にし、過酷な労働を強い、400年に亘った。イスラエル人の人口が増えていくに伴い、反乱を起こされることを恐れたファラオは、生まれてくる男の子をナイル川に投げ込み、殺す虐待政策を取った。イスラエル人は、ヨセフ時代とは違い、エジプトで苦惱の呻き声を挙げる状態になった。